

## 「時代の変化を捉え力強く未来を切り拓く秋田」に向けて

この度、平成 30 年度から 4 年間の県政運営の指針となる「第 3 期ふるさと秋田元気創造プラン」を策定いたしました。

これまで、2 期 8 年にわたるプランに基づき本県の成長と発展を目指して、県民の皆様とともに全力で取り組んできたところでありますが、その成果を土台にしながら、今後、本県の更なる飛躍に向け、向こう 4 年間、重点的に取り組む政策を施策群とともに取りまとめたものが、この 3 期プランであります。



今後の 4 年間は、これまでの取組により、成果が形になりつつあるものをさらに加速させていくことが重要であり、幅広い分野にわたって、より確かな成果を目指し、本県の成長につながるよう全力で取り組んでまいります。

また、人口減少対策のように、一朝一夕に成果が上がらないものについては、目先の結果に振り回されることなく、冷静に将来の本県の姿を展望しながら、着実に歩みを進めていくことが大切であり、秋田への定着・回帰の流れをつくるとともに、全国トップレベルの子育て支援などの充実を図ってまいります。

昨年 4 月、昭和 31 年以降、減少傾向を続けた本県の人口が、戦後初めて 100 万人を割り込みました。当面の人口減少は避けられないものでありますが、先人が築き上げたふるさと秋田をしっかりと守り伝え、発展させていくためには、人口減少に真正面から向き合い、これを乗り越えていくことが重要であります。

もとより人口減少の克服に向けた道のりは長く、決して平坦なものではありませんが、いつの時代であっても、逆境の中、懸命な努力によって数々の困難を克服し、新たな時代を切り拓いてきた先人に思いを馳せながら、決して悲観することなく、人口減少を克服し、元気なふるさと秋田を創り上げるという強い思いを持って挑戦していきたいと考えております。

さて、昨今の世界経済に目を向けると、一部で反グローバル化の動きが見られ、今後の成長へのリスク要因となることが懸念されるものの、世界経済は順調に回復しており、中でも東アジアの新興国においては、引き続き高い成長が見込まれております。

一方、日本経済は、円安や低金利を背景に、輸出や生産が持ち直しを見せ、雇用・所得環境の改善を伴いながら緩やかに回復を続けており、その期間が「いざなぎ景気」を超えたとも言われ、さらには有効求人倍率が史上初めて全都道府県で1倍を超えた状況にあります。

しかしながら、今後の日本経済を展望すると決して楽観することはできません。我が国全体の人口が、加速する少子高齢化とともに、減少局面を迎える中であって、国内市場の縮小、労働力人口の減少など成長の阻害要因が、我々の前に立ちはだかっているからであります。

こうした状況に対応し、国では、経済の成長軌道を決かなものにし、持続的な経済成長を図るため、「人づくり革命」と「生産性革命」を車の両輪として推進することとしており、「人づくり革命」では、すべての国民が元気に活躍し、安心して暮らすことのできる社会を目指し、生涯にわたる質の高い教育の提供など人材への投資に主眼を置いているほか、「生産性革命」では、AIやIoT、ロボティクス技術など新しいイノベーションを活用することによって、産業や日々の生活など様々な分野において生産性を高めていこうとしております。

この二つの「革命」に関する基本的な考え方については、プランにおいても、本県にふさわしい形にアレンジして織り込んでいるところであり、特に、第4次産業革命によるイノベーションの活用については、生産、販売、消費といった経済活動はもとより、健康、医療、公共サービス、さらには人々の働き方、ライフスタイルなど幅広い分野で関わりがあることを踏まえるとともに、地域課題の解決に向けた有力な手法としても位置づけながら、横断的に取り組んでいくこととしております。

2期プランで、本県の理想的な将来像として「高質な田舎」を提案させていただきました。当時は、今のように大々的に第4次産業革命が話題にされることはありませんでしたが、私には、「高質な田舎」における仕事や生活など、それぞれの場に違和感なく溶け込んで活用されているイノベーションとともに、そこで豊かに暮らす人々の姿が思い浮かびます。

今、時代は激動の時を迎えております。時代の波に乗り遅れば、ただ取り残されていくだけであります。そしてまた、あらゆる分野で競争は激化していきます。こうした中で生き残るためには、今以上のことは何もしない、現状を変えないという選択肢はありません。

また、歴史を振り返ってみても、産業であれ何であれ、他に過度に依存して新たな取組に成功した例はなく、自立・自助の精神が根底になれば、決して物事を成し遂げることはできないのであります。

時流をしっかりと読み解きながら、これからの本県をどのような姿に創り上げ、次世代に引き継いでいくのか、また本県の持続的な発展に向けて、今後、如何なることに挑んでいくのか、将来の秋田を念頭に置きながら、積極的な県民の参画の下、一人ひとりの力を結集して果敢に挑戦し続けていくことが求められております。

人口減少など本県は多くの課題を抱えておりますが、必ずやこれを克服し、乗り越えるという強い気概を持ちながら、本県の持つ有形無形の資源など、あらゆる可能性を発展と成長につなげ、よりよい秋田を築き上げていくため、私自身先頭に立ち、全力で秋田の未来を切り拓いてまいります。

平成30年3月

秋田県知事 佐竹敬久

## 目 次

### 第1章 プラン策定に当たって

1 策定の趣旨	2
2 『プラン』のねらい	3
3 推進期間	3
4 『プラン』の構成	4

### 第2章 時代の潮流 本県の現状と課題 本県の可能性

1 時代の潮流	8
2 本県の現状と課題	16
3 本県の可能性	26

### 第3章 秋田の目指す将来の姿

1 目指す将来の姿～「高質な田舎」を目指して～	32
2 時代の変化を捉え力強く未来を切り拓く秋田	32
3 目指す将来の姿の実現に向けた『プラン』の推進方針	37
4 4年間で創造する“4つの元気”	40

### 第4章 重点戦略

はじめに	42
1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略	46
2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略	79
3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略	112
4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略	166
5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略	202
6 ふるさと未来を拓く人づくり戦略	229

### 第5章 基本政策

1 県土の保全と防災力強化	266
2 環境保全対策の推進	270
3 安全・安心な生活環境の確保	273
4 ICTによる便利な暮らしの実現と地域の活性化	278

### 第6章 『プラン』の推進に向けて

1 県民の意見の反映	282
2 多様な主体との連携	282
3 市町村との役割分担と協働	282
4 あきた未来総合戦略との一体的な推進	282
5 新行財政改革大綱(第3期)の取組の着実な推進	283
6 政策評価システム等による進行管理	283
7 『プラン』と『個別計画』の一体的な推進	284
8 地方分権改革に関する提案等	284

### 参考資料

資料1 『プラン』の策定経過	286
資料2 秋田県総合政策審議会委員・専門委員名簿	288
資料3 『プラン』の政策・施策体系一覧	290
資料4 政策分野ごとの個別計画一覧	293
資料5 用語解説	297